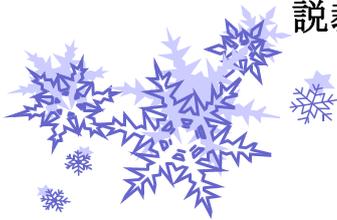


説教要旨「立ちすくんではいませんか」



マタイによる福音書 14章 22～33節

今日の聖書の箇所では、不安と恐れの中にある弟子たちの姿が描かれています。イエス様は、弟子たちを“強いて”舟に乗せ、向こう岸へと先に行かせ、ご自分は一人で山に上り、そこで祈っておられました。弟子たちだけに乗せた船は強い逆風と大きな波に襲われ、湖上で立ち行かなくなってしまったのです。日も暮れ、真っ暗闇の中、強い風に煽られ、弟子たちはどっちに向かって漕いだら良いのかも分からなくなっていたでしょう。弟子たちの中には、「イエス様が、強いて舟に乗せなければ、このような窮地に陥らずにすんだのに」。などと、イエス様を非難する思いが湧き上がっていたかもしれません。

しかしイエス様は、この弟子たちのことを見捨てたりはしませんでした。夜が明け始めたころ、イエス様は湖の上を歩いて、弟子たちの船に近づかれたのです。弟子たちは最初それを幽霊だと思い、恐れますが、イエス様は「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」と彼らに語りかけます。逆風の中で漕ぎ悩み、またイエス様が共にいて下さることをも見失ってうろたえ、おびえている弟子たちに、イエス様はどのような時も共におられることを示されたのです。

イエス様に強いられて舟に乗り込んだのに、逆風に阻まれて舟はちっとも進まない。めざすべき方向もわからず、見回してもイエス様の姿は見当たらない。私たちは人生において、逆風に晒されることがしばしばあります。もはやどうしようもないと思える困難の中であって、神さまは一緒にいてくださらない、見捨てられたと嘆かずにはいられないようなとき、イエス様は私たちの思いを超えた仕方で「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」と語りかけてくださるのです。

私たちは毎週、み言葉によって励まされ、それぞれに生活の場へと送り出されてまいります。逆風に晒され、荒波にもまれ、恐れ、戸惑うばかりの私たちに、「安心しなさい。恐れることはない」と語りかけて下さる主に、「主よ、助けてください」とすがりつきながら、この一週も歩んでまいりましょう。